

テレワークを狙った攻撃・被害が拡大中です！ 備えは十分ですか？



「セキュアコラボ」でテレワークを守る

「セキュアな接続」を実現する
リモートコントロールツール

「セキュアなログイン」を実現する
Windowsログイン管理ツール



実際の攻撃パターンから解決の糸口を探る

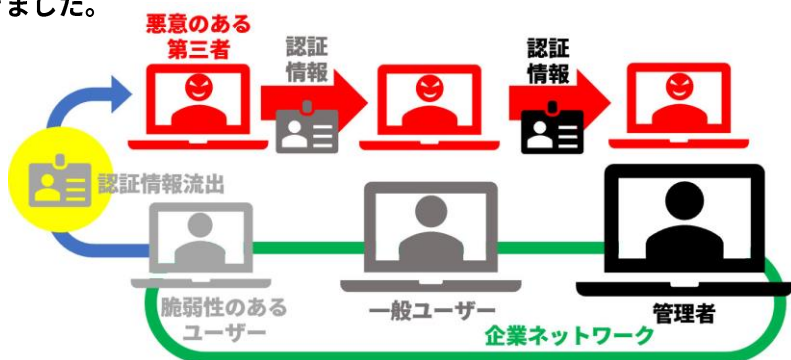
テレワークの拡大に伴い、多くの企業では、VPNやRDP(リモートデスクトップ)を利用した社内ネットワークへのリモートアクセスが急増しています。VPNを使えば、どこからでも安全に接続できると思われるかもしれませんが。しかし最近でも、VPNアプライアンスの脆弱性を狙ったサイバー攻撃により、大手セキュリティ会社の管理する8.7万台分のVPN認証情報が流出するインシデントが発生しており、もはやVPN頼みでは安全とは言えない状況になっています。

▶ VPN・RDPの脆弱性をついた侵入

攻撃者は最初にVPNの脆弱性のある端末のユーザー情報を入手します。そこからツールを使い、ネットワークにRDP接続しているユーザー情報を入手、さらに管理者権限を持つユーザー情報を入手、という形で横展開していく「ラテラルムーブメント」と呼ばれる攻撃者の動きにより被害が拡大していきました。

▶ ラテラルムーブメントを防ぐには

企業内のすべてのユーザーが、すべてのネットワークにアクセスできる場合、たった1つのユーザー情報の流出が、大きな不正アクセス被害を生むことにつながってしまいます。どのようにしてセキュアなリモート接続、さらにはセキュアなユーザーログインやログイン状況の可視化を実現すれば良いのでしょうか。



セキュアリモートアクセス&セキュアログインの強力コラボレーション

社外からのリモートアクセスには「ISL Online」、社内ネットワークとなるWindows Domainへのログインには「UserLock」を使用することで下記のメリットを実現します。

セキュアリモートアクセス

VPNに頼らずに安心・安全

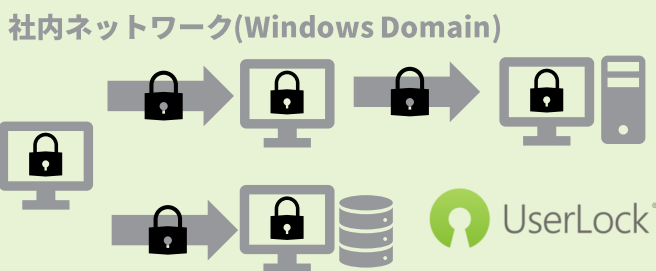


▶ ISL Onlineのセキュリティ機能

- VPNを使わない安全な暗号化(256bit-AES)接続
- ISL Online経由の接続管理とログ管理
- ユーザー毎の利用制限(情報漏洩対策など)

セキュアログイン

二要素認証とログイン状況の可視化
による不正アクセスを防止



▶ UserLockのセキュリティ機能

- 二要素認証により特権IDや共有IDを保護
- 端末にログインしたアカウントやRDP接続に使用したアカウントの可視化とログ管理

ISL Onlineは離れた場所にあるPC画面をネットワーク(インターネット/イントラネット)越しに見て・操作できるリモートコントロールツールです。



▶高度なISL Onlineのセキュリティ

VPNのように接続ターゲットまで直接アクセスするのではなく、ISL Onlineサーバーが「壁」となってその接続の正当性が確認できた場合にのみ、「操作する側」と「操作される側」を結ぶ「暗号化トンネル」を形成し、接続を許可します。トンネル内を流れるメタ情報には、解読が困難なSSL 256bit-AESを採用しています。

▶セッション履歴、接続数の管理

アカウントごとの接続履歴がサーバに格納されるため、「誰が」「いつ」「どの端末に」接続したかなどの全オペレーターの利用履歴の一元管理が可能です。

オペレーター単位で機能制限を設定することもできるため、よりセキュアな運用を実現できます。

社内ネットワークを守るログイン管理



▶二要素認証の追加

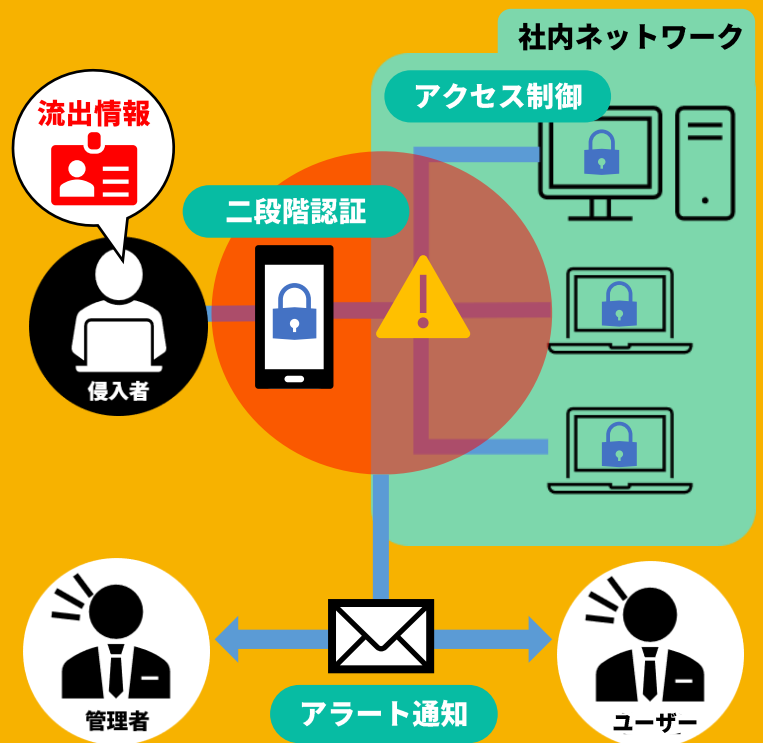
社内ネットワークへのログインに二段階認証を簡単に付加することが可能です。アクセス管理機能と組み合わせることで、強固な認証ルールが設定可能です。

▶柔軟なアクセス制御

接続方法(RDPやVPN)、端末や時間、同時ログイン数などによってユーザーアカウントの利用を管理できます。社外からの不正アクセスだけでなく、社内でおきるアカウントの内部不正利用にも有効です。

▶不正アクセス検知とアラート通知

パスワード間違いや許可されていないアクセスがあった場合にアラートを通知します。ユーザーアカウントの利用状況をリアルタイムで通知することで特権IDの不正利用にも対応できます。



つかえるITを、世界から。

株式会社オーシャンブリッジ

〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-12 住友不動産元赤坂ビル7F

Web : <https://www.oceanbridge.jp/>

Email : userlock@oceanbridge.jp